

LRQA独立保証声明書

ANA ホールディングス株式会社の 2025 年度環境データに関する保証

この保証声明書は、契約に基づいて ANA ホールディングス株式会社に対して作成されたものである。

保証業務の条件

LRQA は、ANA ホールディングス株式会社（以下、会社という）からの委嘱に基づき、統合報告書 2026 及び ANA グループウェブサイトの環境・社会データに掲載される 2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）の環境データ（以下、報告書という）に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISAE3000（改訂版）及び温室効果ガス（GHG）排出量については ISO14064-3:2019 を用いて、限定的レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社とその国内外連結対象子会社における運営及び活動 に対して、以下の要求事項を対象とする。

- 会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下の指標に関するデータの正確性及び信頼性の評価

環境データ

- GHG 排出量¹
 - 地上設備及び自動車由来スコープ 1 GHG 排出量 (トン CO₂e)
 - 航空機由来スコープ 1GHG 排出量(トン CO₂)²
 - 退役後機体の輸送に伴うスコープ 1GHG 排出量(トン CO₂)
 - スコープ 2 GHG 排出量 [マーケット基準及びロケーション基準] (トン CO₂)
 - スコープ 3 GHG 排出量 カテゴリー1, 2³, 3, 4⁴, 5⁵, 6⁶, 7⁷, 12, 13 (トン CO₂e)
 - Sustainable Aviation Fuel (Animal fat and Used Cooking Oil) 由来 GHG 排出量 (トン CO₂)
- 航空機の LTO (Landing/Take Off) サイクルでの NOx 排出量(トン)⁸
- エネルギー消費量
 - 総エネルギー使用量(原油換算 kl)
 - 航空機エネルギー消費量(原油換算 kl)
 - 自動車燃料の消費量(原油換算 kl)
 - 地上エネルギー消費量（機体への電力供給を含む）(原油換算 kl)⁹
- 水資源
 - 総消費量 (m³)
 - 上水消費量 (m³)
 - 中水消費量 (m³)

保証業務の範囲は、報告書に言及されている上記に明示した以外の組織のサプライヤー、業務委託先、その他第三者のデータおよび情報を除く。

¹ GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。

² 全日本空輸(株)、(株)エアージャパン、ANA ウイングス(株)、Peach Aviation(株)、日本貨物航空(株)が使用した全ての航空機燃料による排出量を対象とする。

³ カテゴリー2：航空機の購入に伴う排出を対象とする。

⁴ カテゴリー4：購入した航空機の輸送に伴う排出を対象とする。

⁵ カテゴリー5：退役機材の廃棄分を含む。

⁶ カテゴリー6：ANA グループの国内の地上勤務社員による出張に伴う排出（航空機による移動を除く）を対象とする。

⁷ カテゴリー7：ANA グループの国内の地上勤務社員による国内の通勤に伴う排出を対象とする。

⁸ 全日本空輸(株)、(株)エアージャパン、ANA ウイングス(株)による航空機の LTO サイクルにおける NOx 排出量を対象とする。

⁹ ANA グループ拠点の国内事業活動による排出を対象とする。

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従って報告書を作成していない
- 表 1 に要約される正確で信用できる環境データを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。

この保証声明書で表明された検証意見は、限定的保証水準¹⁰、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

保証手続

LRQA の保証業務は、ISAE3000（改訂版）及び GHG については ISO14064-3:2019 に従って実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

- 報告書内に重大な誤り、記載の脱漏及び誤表記が無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプルング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 2025 年度の環境データ、並びに記録の検証を行った。
- データマネジメントシステムの運用状況を評価する為、ANA コンポーネントテクニクス株式会社長崎事業所と福岡空港国内線旅客ターミナルビルを訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行うと同時に、敷地範囲において排出源の現場確認を実施した。

観察事項

保証業務における観察事項は以下の通りである。

会社は、継続して GHG 排出量の完全性、正確性、信頼性を維持・向上することが期待される。特に、各拠点での算定ルールの特明確化など、集計ルールが徹底される仕組みを確立することが望まれる。

基準、適格性及び独立性

LRQA は ISO14065 “温室効果ガスー認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価ーマネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項 - 第1部：要求事項” に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準¹と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQA は、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQA が会社に対して実施した業務はこの検証のみであり、それ自体が我々の独立性あるいは中立性を損なうものではない。

¹⁰ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

署名

2026 年 6 月 23 日



由岐中 一順
LRQA 主任検証人
LRQA リミテッド



清水 佐衣子
LRQA テクニカルレビューアー

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA 10F
LRQA reference: YKA00000811

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2026.

表 1. ANA グループの 2025 年度環境データの要約

ANA グループの事業活動に伴う、以下の環境データ		
スコープ 1 GHG 排出量	12,369,539	(tCO ₂ e)
スコープ 2 GHG 排出量 (マーケット基準)	72,276	(tCO ₂)
スコープ 2 GHG 排出量 (ロケーション基準)	75,074	(tCO ₂)
ANA グループ拠点の事業活動 (国内 10 空港での機体への電力供給を除く) に伴う、以下の環境データ		
エネルギー消費量 (国内拠点のみ)	50,626	(原油換算 KL)
スコープ 1 GHG 排出量 (※自動車用燃料消費分、地上拠点でのフロン類を含む)	33,335	(tCO ₂ e)
スコープ 2 GHG 排出量 (マーケット基準)	55,940	(tCO ₂)
スコープ 2 GHG 排出量 (ロケーション基準)	58,267	(tCO ₂)
自動車用燃料の消費量	10,353	(原油換算 KL)
自動車用燃料の消費に伴うエネルギー起源 CO₂ 排出量	27,475	(tCO ₂)
水資源消費量 (上水)	494,038	(m ³)
水資源消費量 (中水)	69,361	(m ³)
水資源総消費量 (上水及び中水)	563,399	(m ³)
全日本空輸株式会社、株式会社エアージャパン、ANA ウイングス株式会社、Peach Aviation 株式会社、日本貨物航空株式会社による有償運航における航空機燃料の消費に伴う、以下の環境データ		
エネルギー消費量	4,663,939	(原油換算 KL)
スコープ 1 GHG 排出量	12,336,204	(tCO ₂)
航空機の LTO (Landing/Take Off) サイクルでの NO_x 排出量	5,914	(トン)
SAF (Animal fat and Used Cooking Oil) 使用による CO₂ 排出量 (スコープ 1 に含まない)	14,117	(tCO ₂)
国内 10 空港での機体への電力供給に伴う、以下の環境データ		
エネルギー消費量	2,612	(原油換算 KL)
スコープ 2 GHG 排出量 (マーケット基準)	5,537	(tCO ₂)
スコープ 2 GHG 排出量 (ロケーション基準)	5,074	(tCO ₂)
ANA グループにおける、以下のスコープ 3 GHG 排出量		
Category 1 : 整備部品費などの購入品・外注費などのサービス関連項目による GHG 排出量	1,296,191	(tCO ₂ e)
Category 2 : 航空機の購入に伴う GHG 排出量	555,552	(tCO ₂ e)
Category 3 : 地上設備および航空機で消費したエネルギーの調達にかかる GHG 排出	1,654,481	(tCO ₂ e)
Category 4 : 調達した航空機の輸送に伴う GHG 排出	142	(tCO ₂ e)
Category 5 : ANA グループで廃棄したものに伴う GHG 排出	50,789	(tCO ₂ e)
Category 6 : ANA グループ社員による全ての出張に伴う GHG 排出 (宿泊分を含む) ※CA および乗員除く	8,937	(tCO ₂ e)
Category 7 : ANA グループの社員による通勤に伴う GHG 排出 ※CA および乗員除く	9,920	(tCO ₂ e)
Category 12: 販売した機体の廃棄に伴う GHG 排出量	17	(tCO ₂ e)
Category 13: 他社にリースした機体の利用に伴う GHG 排出量	540,687	(tCO ₂ e)